

令和5年度事業報告

令和5年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下ご報告いたします。

令和5年度は第4期指定管理期間の最終年となりました。5月8日より新型コロナウイルス感染症予防対策が完全に緩和され、コロナ禍前に戻り通常貸館業務となりました。施設の稼働率につきましては、前年比からホールは65.5%で4.1%減、展示・多目的室は54.3%で12.7%減、リハーサル室は78.8%で3.1%増となっています。しかし、前年度は実質4か月間のみの稼働でしたので、コロナ禍前の平成30年度との比較をしますと、ホールは4.7%増、展示・多目的室は11.1%減、リハーサル室は2.4%減となっています。コロナ禍、そして、大規模改修工事のため3年半近く施設利用ができなかつたため、ホールに関しては定期的に利用していた市内外の団体、個人などが戻って来ています。展示・多目的室は貸し出しが1年前からの受付ということもあり、その時点で懇親会など飲食を伴うイベント利用に制限もあつたため、減少となったと考えられます。

次年度以降はコロナ禍前の通常の状況であることから、利用者の戻りが考えられ、引き続き、駅前立地、リニューアルの利点を活かし、利用促進を図りたく考えます。

自主事業については新型コロナウイルス感染症予防対策が5月より完全に緩和されたこともあり、コロナ禍前と同様の状況となり、開館以来の春の定番公演である春風亭小朝公演を皮切りに、22事業26公演（共催3公演を含む）を実施いたしました。

主な事業内容ですが、鑑賞型事業では4回目となった人気の矢野顕子公演、初めて取り上げたジャンルのアニソン公演はレジェンドの参加もあり完売となりました。令和1年に新型コロナの影響で実施できなかつた開館25周年企画、「ベートーヴェンをたたえて」2事業6公演を実現。自主制作型事業は2事業、ひとつは4年振りに11回目となったオープンハウス。吹奏楽をテーマに中高生から一般の吹奏楽ファンを対象とした公開クリニックや合同演奏の公募を行い、全国から熱心な愛好者が集まりました。そして、もうひとつは13回目となった狛江ゆかりの音楽家を迎えての「エコルマ・アンサンブルコンサート」。また、共催事業は、ほぼ隔年実施で6回目となる小学生以上を対象にした舞台ワークショップ&公演「パフォーマンスキッズトーキョー（共催：アーツカウンシルトーキョー）」、5回目となる「ふれあいこどもまつり（共催：ふれあいこどもまつり実行委員会）」を実施しました。

また、2年目となった地域創造の助成による創造プログラム（「Re:Start～エコルマホール」）では、プロのピアニストによる公募受講者を対象に公開レッスンと発表会を行いました。

ホールステージ上やロビーで実施していた「エコルマほっとライブ」は完全にホール客席前面部分の220席を利用しての変更となりました。5公演実施しましたが低料金ということもあり好評で、特にバリ舞踊、演歌は完売となりました。

また、狛江市教育委員会からの委託協力事業として市内小学年生を対象とした「公共ホール音楽活性化事業ガラコンサート」、そして、狛江市民まつりの事業の一環として、エコルマ・ステージを実施しました。

支援型事業に関しては、1団体を決定、実施しています。

なお、3月に予定した財津和夫公演が出演者の新型コロナウイルス感染のため、残念ながら中止となりました。

今年度は、ほぼコロナ禍前の状況戻り始め、俱楽部E会員数も800名半ばを維持しています。チケットのインターネット予約状況は公演により差があり、60%近くだった公演、反対に10%を切る公演もありました。

引き続き施設の利用状況の把握、近隣施設などと情報交換を行い、事業を実施し令和7年度の開館30周年に向け事業を展開して参ります。